

## 2 『禅の里』まちづくりの推進に向けた会議運営

### 2.1 『禅の里』まちづくり実行委員会・事務局会議の開催状況

『禅の里』まちづくりを進める上で決定機関となる組織として『禅の里』まちづくり実行委員会を設置し、『禅の里』まちづくり事務局会で協議された内容等について検討した。

表 2.1 『禅の里』まちづくり実行委員会開催状況

会議名	開催日時	会議概要
第1回『禅の里』まちづくり実行委員会	平成23年9月12日 月曜日 16:00～	<ul style="list-style-type: none"><li>委員会規約や委員長、副委員長などの選出</li><li>本年度の事業のスケジュールや具体的な検討内容などについての調整</li><li>他都市のまちづくりの事例紹介、意見交換を実施</li></ul>
第2回『禅の里』まちづくり実行委員会	平成23年10月28日 金曜日 16:00～	<ul style="list-style-type: none"><li>視察内容、大学との連携方法などについての調整</li><li>第1回事務局会議でのワークショップの結果報告</li></ul>
第3回『禅の里』まちづくり実行委員会	平成23年12月15日 木曜日 16:00～	<ul style="list-style-type: none"><li>福井工業大学吉田教授より、学生まち歩きを受けたまちづくりへの提案</li><li>まちづくりへの提案内容についての意見交換</li><li>視察の感想の発表、文化庁補助事業で実施すべき項目についての説明、『禅の里』実行委員会の体制変更などについて意見交換</li></ul>
第4回『禅の里』まちづくり実行委員会	平成24年1月18日 水曜日 16:00～	<ul style="list-style-type: none"><li>現在までの『禅の里』まちづくりに関する取組みの報告と体制の強化</li><li>『禅の里』まちづくり講演会の具体的内容および講演会と同日開催を予定している万灯供養などについて意見交換</li></ul>

永平寺、門前町の住民、商業者、永平寺町役場等による『禅の里』まちづくり事務局会では、大本山永平寺と門前町集落のまちづくりを考えていくため、勉強会を4回開催した。

表 2.2 『禅の里』まちづくり事務局会議開催状況

会議名	開催日時	会議概要
第1回『禅の里』まちづくり事務局会議	平成23年10月13日 木曜日 16:00～	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化庁補助事業の概要や今年度のスケジュールについての説明</li> <li>大学との連携方法やシンポジウムの実施方法などについての協議</li> <li>永平寺及び門前の強みと弱みというテーマでワークショップを実施</li> </ul>
第2回『禅の里』まちづくり事務局会議	平成23年12月2日 金曜日 16:00～	<ul style="list-style-type: none"> <li>福井工業大学の学生によるまち歩き及び学内意見交換の結果報告と門前のまちづくりの方向性についての意見交換</li> <li>今後の『禅の里』まちづくりで取り組むべき事項についての検討</li> </ul>
第3回『禅の里』まちづくり事務局会議	平成24年1月12日 木曜日 16:00～	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在までの『禅の里』まちづくりに関する取組みの報告と体制の強化についての協議</li> <li>『禅の里』まちづくり講演会の具体的内容および講演会と同日開催を予定している万灯供養などについての意見交換</li> </ul>
第4回『禅の里』まちづくり事務局会議	平成24年1月27日 木曜日 13:30～	<ul style="list-style-type: none"> <li>『禅の里』まちづくり講演会の開催に向けた個別調整事項</li> <li>次年度の取組に向けた確認(文化庁申請内容)</li> </ul>

## 2.2 実行委員会や事務局会議でのまちづくりに関連する話合いの結果

### 2.2.1 永平寺及び門前町の現状や問題点について

第1回実行委員会では、永平寺への観光動向や永平寺と門前の関係、及び問題点とその解決方法等について話し合われた。以下、話合いの中で出された意見を示す。

#### 1) 観光動向について

- 永平寺は昨年度 57 万人まで参拝客が減少した。多い時には 150 万人の参拝客が訪れていた。
- 観光客が減少した要因は、鉄道が廃線になり交通の便が悪くなったことだと思う。廃線については町長から何も説明がなかった。観光客は鉄道がなくなってどのようにして永平寺まで行けばよいか分が分からなくなったのが観光客減少の原因ではないか。
- 新聞で永平寺のことが 2 週続けて記事になった。中高生には福井県、福井市がどこであるか分からない人が多いと聞く。福井市、永平寺がどこにあるかを知ってもらうことが重要。
- 高山や京都の嵐山、宇治、奈良、金沢など人気のある他都市に視察に行くが、人の集まる観光地のニーズが変わってきている。ぶらり旅ができる場所が観光地として賑わいを持っている。
- 京都の清水寺周辺でも、外見は変わっていないように見えるが、中身は変わっている。店として駄目なところは新しい人が入ってきている。
- 他都市の観光地を見て、まちなみが楽しい、色々なものがあるということが今の観光の主流であると思う。
- 福井県に住んでいるのに永平寺に行ったことがない若者が多い。永平寺を見ることも魅力的であるが、それだけでは、若い人は足を向けない。他に魅力がないと若い人をひきつけることは難しい。

#### 2) 永平寺と門前の関係について

- 本山は修行道場として精一杯やっており、これ以上何かをすることは難しい。
- 門前町の活力が人をひきつける、参拝客を増やす要因となると思うが、残念ながら同じようなお土産物屋が並んでいる状況である。この機会をきっかけとして永平寺町の門前町が活性化するようにがんばってほしい。
- 50 万人に減った観光客を一度に取り戻すことは難しいと思うが、少しずつでも回復できるようにがんばっていければよいと思う。

#### 3) 永平寺、門前の問題・課題とその解決方法について

- どの橋の色も赤く趣がない、川もコンクリートで趣がないなど問題がある。一度には出来ないので、一つひとつ考えて進めていくことが必要である。
- 門前の一つのモデルとして入り込むことは可能であると思う。門前らしさ、永平寺らしさをめざし、小さいことをコツコツと進めていくことで光が見えてくる。
- 今までは永平寺だけで人が集まってきたが、今後は店の魅力でにぎわいを創出していくことが重要である。
- 自分たちも変わっていかないといけないと思う。ブランド力も必要。門前でも自分の店舗を考えていくだけでなく、外からのテナントも考えていく時代がやってきていると思う。
- 観光地という土地柄に甘えているようで、一つひとつの店が福井市内、県外に出ても通用するようにならないと店自体が成り立たないと思う。



図 2.1 第 1 回『禅の里』まちづくり実行委員会の様子

## 2.2.2 ワークショップの実施

第 1 回事務局会議では、永平寺及び「禅の里委員」が中心となって、永平寺及び門前町の現状や問題点について、ワークショップ形式で話し合いを行った。次頁にそのとりまとめの結果を示す。



図 2.2 第 1 回事務局会議でのワークショップの様子



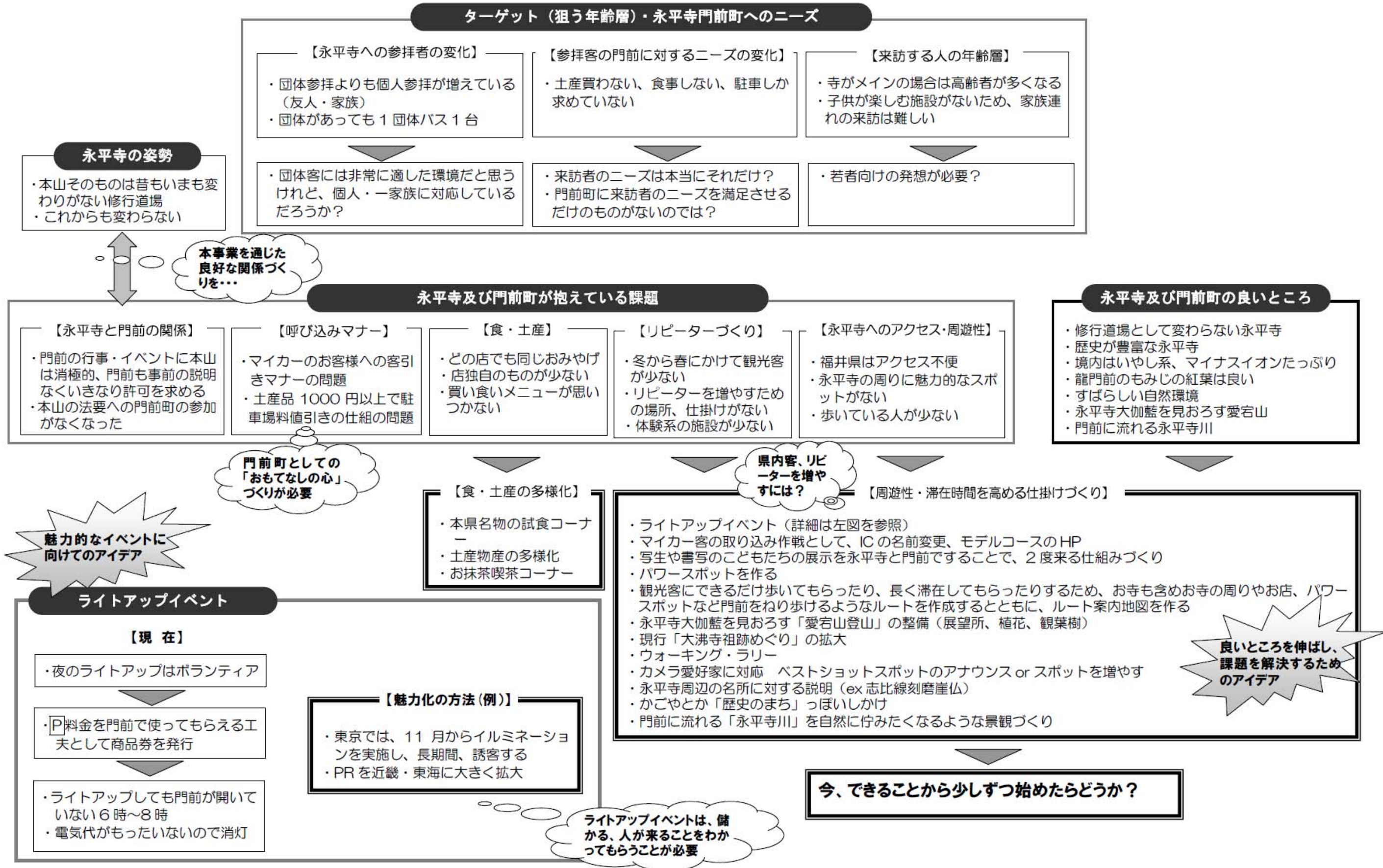


図 2.3 ワークショップの結果



## 2.2.3 福井工業大学からの提案・意見交換

### 1) 学生まち歩き、学内意見交換会の報告

11月20日に、福井工業大学の1年～4年学生が3グループに分かれて、まちを見る視点を明確にするため記録用紙に書き込みながらまち歩きを実施した。

第2回事務局会では、その結果について、福井工業大学下川准教授と学生より以下のような発表があった。

#### (1) まち歩きの日時

日 時：11月20日（日）13：00～16：00（地元の方への簡単な報告会を含む）

場 所：永平寺、永平寺門前町



図 2.4 学生まち歩き、意見交換会の様子

#### (2) まち歩きの結果を受けた提案

##### a) まちの構成と『禅の里』まちづくりに向けての改善方法(案)

『禅の里』まちづくりに向け、以下の3つのみちごとに特色を持たせ、『禅の里』としてふさわしい永平寺門前町の活性化を図っていく改善方法（案）が示された。



図 2.5 禅の里の構成イメージ

i) おもてみち(ルート1)

表 2.3 おもてみちの良い点、気になった点、改善方法(案)

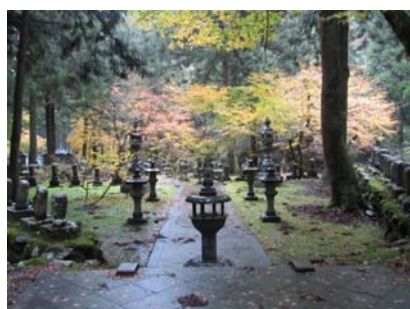
良い点	気になった点	改善方法(案)
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人が賑わっている。</li> <li>• 各店舗の店員さんの接客対応が良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 車、バスの乗り入れ</li> <li>• 家並み（建物の高さ・様式、空き地など）</li> <li>• 道路の舗装</li> <li>• 看板のデザイン（色や配置）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 駐車場を減らす</li> <li>• 歩行者と車を区別する</li> <li>• 門前町の入り口に共同の駐車場を配置する</li> <li>• 建物の壁の色・仕上げを統一する</li> <li>• 看板に工夫が必要</li> <li>• 空き地の利用</li> </ul>



ii) 寂光苑みち(ルート2)

表 2.4 おもてみちの良い点、気になった点、改善方法(案)

良い点	気になった点	改善方法(案)
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 静寂な雰囲気があり落ち着いて自然に触れ合える。</li> <li>• 稚髪像や明全塔など永平寺の歴史が感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 工作物（建物・看板など）の造形が周りの景観に合っていない。</li> <li>• 観光客をここへ誘導する工夫が足りない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 景観に考慮して工作物（建物・看板など）のデザインを考える</li> <li>• 観光客を誘導する工夫</li> </ul>





iii) やすらぎみち(ルート3)

表 2.5 おもてみちの良い点、気になった点、改善方法(案)

良い点	気になった点	改善方法(案)
<ul style="list-style-type: none"> <li>道路脇を川が流れ、その背景に山が迫っていて自然を感じられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場や看板が風景を損ねている</li> <li>道路が狭いのに車が通るため、落ち着いて散策できない</li> <li>道沿いの家に、道通りに対する配慮が伺えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場、看板の見直し</li> <li>川を使ったイベント（演奏会など）ができる場所にする</li> <li>川沿いを散策道にしてそこで自然を感じるようなビュースポットを作る（寺院、山々、川を一望）</li> </ul>



b) 私たちの提案 ～歩きたくなるまちづくり～

とりまとめとして、～歩きたくなるまちづくり～をキーワードとし、以下の5つの提案をいただいた。

1. 山・川・樹木など豊かな自然を生かそう
2. 車の乗り入れを見直そう
  - まちの入口に共同駐車場を設置（現、町営駐車場）
3. 門前に永平寺の顔を見せよう
  - 菅笠や永平寺の寺印をモチーフにした看板
  - じゅず、永平寺案内本、永平寺そば、ゴマ豆腐、特産品（にんにく）を活かしたお土産品の開発
4. 家並に統一感を出そう
  - 材料の色合い、軒の高さ、日よけテント
5. 歩いて楽しいまち、歩きたくなるまち
  - 共同駐車場で車、バスを降り、おもてみちを歩きながら参禅
  - 伽藍の中で禅の文化や歴史に触れ、寂光苑みち・やすらぎみちの散策を通して自然を味わう



### (3) 福井工業大学吉田教授による提案の総括

第3回実行委員会では、学生からの提案を踏まえ、福井工業大学吉田教授より、以下の通り提案の総括をいただいた。

- 私たちからの提案として、「歩きたくなるまち」を提案したい。歩いてもらう仕掛けとして、通りの特性を踏まえ、①おもてみち、②寂光苑みち、③やすらぎみちと3つの通りに名前をつけ、特性をもたせた整備が望ましいと考える。
- 歩く道であるという視点で考えれば、おのずと道路の舗装も考えるし、道路に隣接する町並みも考え、よくなっていく。
- 豊かな自然をどこからでも味わえるようなまち、歴史性を打ち出すことが重要である。
- 豊かな自然を活かし回遊性をつくる必要がある。
- 永平寺の寺院の修復・改修などをしてきた永平寺大工が江戸時代には50人はいた。今の大工町といわれる地区にまとまって住んでいたとのことである。永平寺大工は優秀であり、近畿圏の広くまで永平寺大工の活躍した形跡が残っている。このような話を2月に開催される講演会の中で皆さんにお話をしたい。
- 門前町にも永平寺の自然や歴史を感じられるものを看板やデザインとして取り入れていくことで一体感のあるまちなみが形成できる。
- 永平寺ではにんにくを使った新しい特産品を考えたり、永平寺の中では数珠など修行に関するものしか売らない、書籍などは門前で販売したりするなどお土産物の住みわけ、独自性が必要である。
- 門前町の道路に面した部分について、表面の板ばりや日よけテントをそろえるだけでも町並みが変わる。



図 2.6 第3回『禅の里』まちづくり実行委員会の様子

## 2)『禪の里』事務局会及び実行委員会との意見交換

福井工業大学からの提案を受け、第2回事務局会では門前や永平寺より以下のような意見が出された。

### a) もてなしの方法

- 傘の統一など学生さんからのアイデアをいただいたが、昔にやってみた経緯がある。また、接客マナーなども門前町と永平寺で考えながらやってみたが、なかなか長続きしない。このような機会ができたので、ぜひ続けられそうなことをやってみたい。
- 表通り、裏通り、上の店、下の店という考え方はあり、門前町の通りに名前をつけたらどうかという意見もあったし、線香の香りを漂わせるという意見も、歩行者天国にしようという話も観光協会の中で以前話しとしてあったが、実現できていないため、力不足を感じている。
- 永平寺に来るといってお客様の目線でソフトとしての気持ちを考えていきたい。

### b) 自然の活かし方

- 歩行者、車の問題、永平寺らしさは昔から感じていたが、自然を活かしきれていないという視点は今まで考えたことがなかった。裏通りの部分の提案については新たな発見であった。
- 自然を活かしていないや目的は門前町ではないという意見をいただいたが、まったくそのとおりであると痛感している。
- 裏通りはやり方によってはよい場所となると思うので、その点を先生や学生さんたちからどのようにしていけばよいかアドバイスがほしい。裏通りを休憩スペースとして使用するなど人を呼び込むために重要なポイントとなると考える。
- 寂光苑の鉄板の橋についてであるが、永平寺川は1級河川であり、勝手に橋を作ることはできず、工事をするために仮設に橋を作ったものがそのままとなっている。仮設の橋をはずすと寂光苑へ行けなくなってしまうので、あえてははずしていない。

### c) 景観整備

- 現在、町の補助をもらいながら店の表の景観の整備を進めている。できるだけまちなみの景観がよくなるようにしたいと思っている。
- 門前町が現在、店の表の景観整備をしているが、統一感がなくならないか心配である。

### d) 看板

- 看板が良くないとの指摘を受けたが、大雪で破損したものがそのまま残っている状態である。
- 永平寺には、韓国や台湾の人も多く訪れることから、外国人にも対応した看板の設置を検討しているが、まだ実行段階には至っていない。
- 看板の統一感がない点について、今後検討を進めたい。
- 永平寺としても案内板などいたらない部分もあると思っている。

### e) 総括

- すばらしい意見であったと思う。学生方の目は正しいと思うので、出してもらった意見を活かしていけるように本山も門前町も一体となったまちづくりを進めていければと考える。

また、第3回実行委員会では、吉田教授からの提案総括を受け、実行委員会委員より、以下のような意見が出された。

- 観光協会としては、先生の意見は後押しをしてもらったような感じである。2年前から歩きたくなる観光地ベスト1をめざしていこうという話はある。
- 電線の地中化や舗装の整備などによって歩きやすい環境づくりを考えていたが、バスがすれ違えないとだめであるなどの意見もあり、今のような状況となっている。
- 寂光苑はボランティアガイドによるガイドを考えており、DVDを配布しPPTを使用しながら案内の練習をしている。
- 山に来たときに自然の豊かさを感じたが、だんだん今の環境になれてしまっていたと感じる。豊かな自然を改めて見直していかないといけないと思う。



## 2.3 視察について

『禅の里』まちづくりを考える上での事例に関する勉強のため、『禅の里』まちづくり事務局会、門前の住民の有志による伊勢のおかげ横丁への視察を行った。

視察時の様子と、その後の意見交換の結果を以下の通り示す。

### 2.3.1 開催日時・場所

視察日：平成23年11月29日（火）

視察場所：おかげ横丁・おはらい町、伊勢神宮

参加者：23名

### 2.3.2 視察の様子



### 2.3.3 懇談会

株式会社濱田総業 代表取締役社長 浜田益嗣 氏  
有限会社伊勢福 代表取締役社長 橋川史宏 氏

#### 1) おかげ横丁は「感覚的成果物」のまち

- コンビニやスーパー等が強い力を持つようになり、全国の商店街が衰退してきているが、これは、利便性や安さを追求する「知的成果物」に商店街が負けたということ。
- 一方、おかげ横丁に人が来るようになったというのは、「感覚成果物」が力を得てきたということ。安さや便利さだけの「知的成果物」では、満足しなくなり、気持ちが和む、落ち着くといった「感覚的成果物」を人は求めるようになった。
- その土地が潜在的に持っている、ほっとするような町が求められている。
- おかげ横丁は入場料を取らなかったのがよかった。仮に 100 円でも取っていたら閑散としていただろう。

#### 2) おはらい町の人達との話合いはしていない

- おはらい町の人達とは、過去も現在もつきあいはない。おかげ横丁は、おはらい町の人達にも何の相談もせずにつくった。仮に相談していたら、自分がしたいものを直線的に実現できなかっただろう。商店街との合意によってできるものが、果たして个性的なものになるだろうか。
- 商店街の人達は、「儲け」を優先する。それが露骨に感じられるまちに、客が喜んでくるだろうか。
- 楽しさやゆとりが感じられる空間は、商店街にとっては無駄なもの。そういった空間を作ろうという余裕が商店街にあるかどうか。

#### 3) おかげ横丁の整備・運営

- 赤福として、伊勢のことを思い、おかげ横丁の整備に 150 億円を投じた。前面道路の電線の地下埋設も、すべて伊勢福で行った。現在収益が約 40 億円、利益が約 2 億円。利益は 5 億円くらいないと、まちを企業化していけない。
- おかげ横丁の店 55 軒のうち、15 軒はテナントとして入居している。売り上げのおおよそ 12~15%のマージンをとっている。保証金は取っておらず、いつでも店舗を入れ替えることができるようにしているが、これまでのところは、店の入れ替えは生じていない。テナントは、業種ではなく、人を見て採用している。
- 伊勢神宮へは、年間 450 万人~680 万人が訪れる（年によって変動がある）。遷宮の前は増加し、後は減少傾向であるが、遷宮の 20 年周期でゆるやかに上昇していけばよい。おかげ横丁ができるまでは、ゆるやかに減少していた。
- おかげ横丁には宿泊施設がない。やれば儲かると思うが、そこまで儲けたいという気持ちがない。
- 駐車場が足りなくなってきており、町の方では有料の駐車場を増設する予定にしているが、有料駐車場になる予定であり、有料に反対の署名をしている。

#### 4) イベントについて

- 飽きられないように、年間を通して催事を行っている。集客イベントではなく季節に応じた催事（五大際、六市、七催事）を行うこととしており、節句、節気等を大事にしている。社員は、おかげ横丁の住人と考えており、暮らしに根付いたイベントとしている。

- また各季節のイベントに応じて、三重県内の様々な方にも参画いただいている。

#### 5) 従業員教育

- 自分達がやっているという誇りを持てれば、従業員は美的ふるまいをするようになる。

#### 6) 今後のビジョン

- 単価の高いふぐ屋、すし屋の導入を検討している。また、外宮の方には、第二横丁を整備したいと考えている。

#### 7) アドバイス

- 観光客が来たときに感じるもの、それが個性であり、観光客はわざわざお金と時間をかけて、ローカルな佇まいを見に来る。自信をもって純粋に突き進むことが大事。
- 湯布院、倉敷、金沢、小布施など、歴史を尊重している。安易に来る人に迎合しないほうがよい。



表 2.6 視察参加者の感想

	おはらい町	おかげ横町
建物の雰囲気は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての建物ではないが、江戸末期を感じる統一の取れた建物できれい。（格子窓や木の看板等趣向をこらしており、シックな趣が伊勢の街に合っている）</li> <li>大きな看板が印象的。</li> <li>古風で今一番求められている物。</li> <li>統一感あまり感じない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代の祭気分、夜店のイメージ。</li> <li>今日は人が少ないと聞いたので、通りなどが狭くても通りやすかった。</li> </ul>
まちなみ全体の雰囲気は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日にもかかわらず人通りが多く、全体的に活気にあふれていた。（一本の通りを歩行者が行きかう様子が非常にうらやましい）</li> <li>散策路、特に五十鈴川べりを若い男女が歩いているなど気持ちが落ち着いた雰囲気が印象的。</li> <li>落ち着いた雰囲気の中で人のにぎわいの対比がおもしろい。</li> <li>全体的なバランスがよく、雰囲気も良い。電線が無い事でスッキリとしている。</li> <li>雑然とした処が良い。</li> <li>おかげ横丁に比べて通りが狭い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>統一感があるので、心が和みやすい空間、ゆったりとした雰囲気である。</li> <li>細い路地に迷い込んだ感覚が印象的。交通量によって雰囲気が変わるのもおもしろい。</li> <li>周遊できるようになっており、活き活きさ、明るさを感じる。</li> <li>こじんまりまとまった感じがする。</li> <li>いろいろあって、各店がゆっくり見られる。よせ集めの。</li> </ul>
地域性をあらわすものは？ （伊勢の特色を感じるもの）	土産物	<ul style="list-style-type: none"> <li>土産物に特色がある。海産物（伊勢エビ料理）、真珠製品が多い。</li> <li>メジャーな赤福や、神代餅は今一つ。</li> </ul>
	まちなみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>民家にしめ縄が飾ってあるなど、独特な雰囲気がある。（家の建方、神様（神宮）に関連したもの）</li> </ul>
商店のつくり、雰囲気は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>道端で商売している人もおり、個々に工夫している。（それぞれ特色がある専門店）</li> <li>一般的な土産品店や魚の干物、練物等専門の店など散策したくなる雰囲気。（立喰い居もある）</li> <li>店の通路が広い。落ち着いた感じ。</li> <li>人通りが多い割には、お店の前を素通りする人が多く感じられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上手にバランスを考えたつくりで、雰囲気がよい。統一感があり、時間をゆったりと過ごせる。</li> <li>横丁全体が1つのお店のように感じられた。入りやすい雰囲気。</li> <li>理路整然と並んでおり次の店次の店と散策しやすい。</li> <li>やや雑然。</li> </ul>
商店での品揃えは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門店がほとんどであり、品揃えが充分。（商店ごとに独自性を感じる）</li> <li>各店がほとんど違う商品を並べているが、若干店によっては同じものが売っている。</li> <li>普通。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>品揃えもよく、個性（各店の主張を感じる）がそれぞれあって、飽きのこない空間。</li> <li>おはらい町に比べてオリジナル感、手づくり感があつた。</li> <li>小さい商品が何種類も並んでいる感じ。</li> </ul>
店の人のもてなしは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な明るさは感じなかったが、丁寧に対応している。</li> <li>対応は良いが、団体の店と個人の店では対応がちょっと違う感じがした。</li> <li>呼び込みをしている人が多い。</li> <li>普通。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>店内の人が楽しんで仕事をしている。誇りを持っているようで気持ちの良い接客だった。</li> <li>商品の説明や伊勢福、おかげ横丁の事等詳しく説明をしてもらえた。（丁寧な対応。親近感がわく）</li> <li>呼び込みをしている人がほとんどいない。</li> <li>良いけれど声が小さい時もあった。</li> </ul>
体験やイベントとして興味をもったものは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>囲碁教室などもあり、地元の人もうまく取り込んでいる感がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おかげ座の映像シアターと昔の横丁の再現展示。江戸期のおかげ参りを体験できる空間であり、何故伊勢神宮にお参りするのかわかると江戸時代の雰囲気がわかって良かった。本当に江戸の世界に迷い込んだようだった。エレベーターのボタンが「江戸」→「平成」となっていてユーモアを感じた。</li> <li>「地域と密着した催事等を四季を通して発信している」考え方。</li> </ul>
まちを訪れている人の客層は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>老若男女がまんべんなく参拝に訪れている。（身障者も多い）</li> <li>若いカップル（20代～40代の若い層）または、年配の方が多い。</li> <li>中間層、家族連れは少ない。</li> <li>おかげ横丁よりも年配の方が多く感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日ということもあり、お客様は少なかったが、20代～40代の女性が多い。（女性の1人旅も多い）</li> <li>親子連れが目立つ。</li> </ul>
伊勢神宮との調和は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>伊勢の町屋を利用（活用）した街づくりが神宮門前をかもし出しており、調和している。（石畳道、落ち着いた雰囲気、古いつくりの木造建築の街並で門前町という感じがある。）</li> <li>川沿いの店、昔は船の出入有。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参拝の後、休む処として最適。</li> </ul>
永平寺門前町とおはらい町、おかげ横丁の共通点は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>参拝を目的としたお客様が観光に来ること。ある意味全体の雰囲気もよく似ている。（共に門前町）</li> <li>おはらい町とは同じくそれぞれ個人経営。</li> <li>永平寺は永平寺のおかげでの商売。おかげ横丁は伊勢神宮のおかげでの商売。</li> </ul>	
永平寺門前町で活用できそうなことは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様へのおもてなし。</li> <li>その土地らしさの創出、ホッとするまちづくり。</li> <li>建物の統一感や、お寺のイメージに見合った雰囲気づくり（看板や配色など）や個々のお店の商品（松阪牛コロッケや豆腐ドーナツなど）を工夫して個性を出す。</li> <li>有料、無料に関わらず見学や体験の出来る空間づくり。</li> <li>長時間話しのできる店づくり。</li> <li>川沿いの遊歩道づくり。</li> <li>駐車場の位置の検討。</li> <li>永平寺と門前町とのコミュニケーションを高める事。</li> <li>四季を通じての催し物や情報の発信。</li> </ul>	
講演会の感想は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>時には勇気を持って強引に一步踏み出すことも必要かと思った。</li> <li>金儲けをしてやろうという心が見え見えな商店にはお客が寄り付かないという事。やはりお客様が楽しくお金を使える空間づくりが大切。</li> <li>究極の“もてなしの心”を学んだ。</li> <li>浜田オーナーの強い意志とこだわりのある雰囲気づくりに衝撃を受けた。（基本コンセプトを貫く姿勢が面白い）</li> <li>行政をあてにしないでその気風のよさや行動力はすごい。</li> <li>門前全体での協調はむずかしいのでは？永平寺門前での方向性を貫く困難さを今更のように重く受け止めた。</li> </ul>	

### 2.3.4 実行委員会や事務局会が出された意見

この視察報告を受け、第2回事務局会では以下のような意見が出された。

- 平日で人が少ないかと思ったが、賑わいがあった。おかげ横丁、おはらい横丁ともに時間をゆっくり使ってみたり、体験ができたりする部分がすごいと思った。
- おかげ横丁を作ったことで人の流れを作ったと聞いたが、永平寺の門前町を目当てに来る客はいない。永平寺も参拝客が減っており、一緒に考えていく必要があると思った。
- おかげ横丁は、想像の範囲内でよく賑わっていた。社員教育は何もやっておらず、ここで働くことで誇りが持てるようにしていると聞いた。永平寺も胸を張ってここで修行してきたと言えるようになればよいと思う。
- 年中行事や神事にあわせ市を開いているという部分が面白かった。

また、第3回実行委員会では、以下のような意見が出された。

- 伊勢福があった場所に1人が150億円もかけておかげ横丁を作ったと聞いた。門前にもそういう人がいるとよいなあとと思った。
- 電線の地中化もやったということを知った。行政では1～2年もかかることを自分のお金でやってしまったと聞いた。お金ですべてをけりつけているような感じを受けた。
- 門前と比較すると差がある。吉田先生の話の中にも町並みの統一化という話があったが、郵便局も銀行も一般の家も町並みが統一されていた。
- 滞在型で1軒1軒違う建物となっていて町並みを見るだけでも長時間楽しめる。
- 永平寺では自然を生かしたものとして違うものをつくりたい。
- せっかく視察に行ったのに、昼食はみんなでということになっていて団体扱いとなっていたことが残念である。だんご1本でも自分で購入してお参りに行く人の気持ちになるようにしたほうがよかったのではないかと思う。